

まち歩き気分!

え

ん

で

こぼなし  
小話



最終回 沼垂地区 町の引越しは神社もお寺も一緒に

沼垂のまちは、王瀬（図 A の①、現在の山の下地区の松島から上王瀬）が発祥の地とされ、中世から湊町として栄えてきました。ところが、江戸時代初期に信濃川と阿賀野川が合流し、河口の変化によってまちが侵食されたり川底が浅くなったりしたため、その度に町ごと移転を繰り返してきました。1684年に現在地に定住するまで、約50年の間に4回も移転し、神社・仏閣も一緒に引越しを繰り返してきたのです。

ガイドさんの **ミニ** 解説



新潟シティガイド 深澤 一彦さん



【図A】沼垂移転の概略位置  
※数字は移転の順番とおよその位置  
【図B】戦国時代の河口付近の推定位置関係  
※点線は現在の位置  
図の典拠：新潟市発行「沼垂の町 小路めぐり」

沼垂地区には1200年ほど前からの歴史ある神社・仏閣が数多くありますが、そのいずれも、最初から今の地にあったわけではありません。

沼垂地区には多くの神社・仏閣がありますが、中でも蒲原神社は蒲原四郡の総鎮守として、古くから人々に親しまれてきました。木・火・土・金・水の五柱の神様を祀ることから「五社神社」、ごしゃ 畠山六郎重宗も祀っていることから「六郎神社」、神社が大島（図 A の③）の山の上にあった頃、四方が青い海に囲まれていたことから「青海神社」など、さまざまな呼び名があります。

また、蒲原神社といえば、まつりの第一夜に農作物の豊凶を占う「御託宣」おたくせん も有名です。今年の蒲原まつりは中止でしたが「御託宣」は行われ、「五穀七分八分の作 水あり（多少の雨が降るが平年並み）」とのお告げが出ましたね。



蒲原神社